



心豊かに育ちあう

沢の子

令和8年度 重点目標

“いつでも考え学び合う、
笑顔あふれる”
子どもの育成

余市町立沢町小学校 令和8年6月29日（月） 第3号

心の架け橋となる「コミュニケーション」を育む

校長 葛西 統実

初夏の爽やかな風が、余市の豊かな自然を吹き抜ける季節となりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、今月の学校だよりでは、子どもたちの健やかな成長に欠かせない「コミュニケーションの大切さ」について、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

現代は、SNS やデジタルツールの普及により、文字一つで簡単に意思疎通ができる便利な時代になりました。しかしその一方で、相手の表情を見たり、声のトーンを感じ取ったりしながら行う「生のコミュニケーション」の機会が、少しずつ減っているようにも感じられます。

学校生活は、まさにコミュニケーションの宝庫です。朝の「おはようございます!」という元気な挨拶から始まり、授業中の意見交換、休み時間の遊びの約束、時には喧嘩をして仲直りをするプロセス。これらすべてが、子どもたちにとって大切な学びの場であると言えます。

学校生活で大切にしたいコミュニケーションには、2つの側面があります。

- ・ 「伝える力」：自分の気持ちや考えを、相手を傷つけない言葉でしっかりと表現すること。
- ・ 「聴く力」：自分とは違う意見であっても、まずは「なるほど、そうなんだね」と耳を傾け、受け止めること。

特に「聴く力」は、相手を大切に思う気持ち（尊重）から生まれます。相手の話をじっくり聴くことで安心感が生まれ、そこに本当の信頼関係が築かれていきます。言葉が通じ合い、心が通い合った瞬間の笑顔は、子どもたちを大きく成長させてくれます。

コミュニケーションの基本は、やはり「家庭の食卓」や「地域のあいさつ」にあります。「今日、学校でどんな面白いことがあった?」「元気にいってらっしゃい!」そんな何気ない一言一言が、子どもたちの心を満たし、他者と関わる自信へとつながっていきます。

このようなコミュニケーション力（「伝える力」、「聴く力」）の育成は、本校の教育目標である「心豊かに育ちあう 沢の子」にも通じるものです。

沢町小学校が、子どもたちにとって「自分の言葉で安心して話せる場所」「誰かの言葉を温かく受け止められる場所」であり続けるよう、教職員一丸となって日々の教育活動に取り組んでまいります。

保護者の皆様、地域の皆様、これからも子どもたちの言葉に耳を傾け、温かい声をかけ続けていただきますよう、よろしくお願いいたします。